

APIR Trend Watch No. 108

AI 関連貿易の動向と特徴

-日本と関西経済との比較を通して-

APIR 研究統括/数量経済分析センター長 稲田義久
APIR 副主任研究員 野村亮輔
APIR 研究員 阿如漢(ARUHAN)

要旨

貿易の『武器化』という言葉がよく使われる。各国が経済安全保障にかかわる貿易品の取り扱いをめぐり先鋭化し地政学的な武器として国家生存競争の道具へと変貌したことを意味している。その代表例が、半導体、レアメタル貿易である。本稿では、急速に拡大する AI 関連需要を取り上げる。具体的には、その動きが反映される AI 関連財貿易を日本全体のみならず関西と比較して、その特徴を明らかにする。本稿での分析を整理すれば、以下の通りとなる。

1. 半導体需要の爆発的な拡大の背景には、ハイパースケーラーの AI 関連投資の急増がある。その影響は AI 関連貿易に表れており、2025 年秋口以降、全国、関西ともに急拡大している。関西の輸出の伸びは全国のそれを上回っており、輸入も同様に急拡大していることから、AI 関連財貿易においてアジア各国と高度な水平分業が行われていることを示している。
2. AI 関連財の輸出入シェアを全国と関西を比較すると、関西の AI 関連財輸出のシェアは全国を上回るが、輸入財シェアは全国を下回っているのが特徴である。
3. AI 関連財貿易を相手国・地域で見ると、中国、韓国、台湾、米国が全国及び関西の共通主要貿易相手国・地域で、それに加えて輸出では香港が、輸入では全国はマレーシア、関西はタイが次いでトップ 5 となる。
4. AI 関連財貿易の財別シェアを全国と関西で比較すると、2025 年の輸出では関西が全国に比して中間財は+5.5%ポイント程度高く逆に、設備・装置は-4.9%ポイント低い。輸入をみれば関西は全国と比べて、中間財は+10.7%ポイント程度高く、設備・装置は-10.2%ポイント低い。
5. 関西の AI 関連財貿易の特徴として、より中間財のウェイトが高い貿易構造となっている。関西は他地域に比べて、「抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品製造業」や「電子回路基板製造業」などのシェアが高く、これらは AI 関連財の中間財に含まれている。その特徴に加え、半導体素材産業の強みを活かした関西の半導体産業の成長戦略が重要となろう。

はじめに

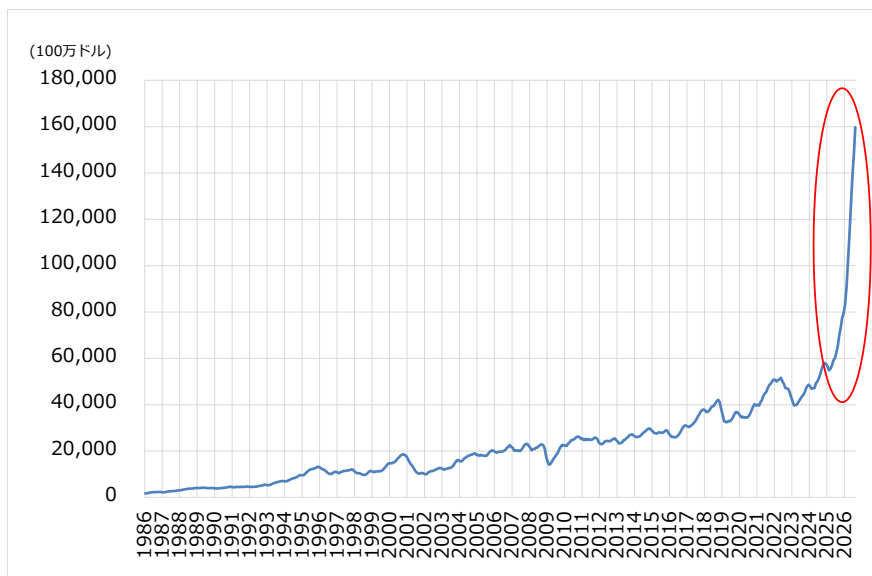
貿易の『武器化』という言葉がよく使われる。貿易が各国の経済安全保障にとって sensitive な領域になっており、貿易品の取り扱いをめぐる各国が先鋭化し地政学的な武器として国家生存競争の道具に変質したことを意味している。その代表例が、半導体、レアメタル貿易である¹。

【世界半導体売上高の動態】

本稿の最初に、World Semiconductor Trade Statics(WSTS)から世界半導体売上高(3 カ月移動平均ベース)を統計が利用可能な 1986 年 1 月に遡り、2026 年 8 月までその動態を確認しよう。世界半導体の売上高(ドルベース)は、1986 年 263.6 億ドルから、2024 年 6,305.5 億ドルと年平均 +8.5%の高い伸びを示してきたが、25 年秋口以降、成長は異質な局面へ移行したことがわかる。実際、26 年 1-8 月累計は 1 兆 5,974 億円ドルとなっている。

2024 年までに年平均成長率+8.5%の高成長を実現したが、1986 年以降、世界の半導体売上高が 2 倍になる時期を確認すると、90 年 9 月がそれに相当し約 5 年程度を要している。次に、4 倍になるのは 94 年 9 月であり、90 年 9 月から同程度の年数を要している。さらに 8 倍になるのは 2000 年 7 月で 7 年程度を要し、その後、リーマンショックを経験したため、16 倍に達したのは 17 年 8 月で 18 年を要した。その後、一旦減速したものの、9 年をかけて 25 年 9 月には 32 倍に到達した。しかし、わずか 1 年後の 26 年 8 月には 74.2 倍となった。ハイパースケーラー²による投資の急拡大の影響で、半導体売上高は異次元の世界に入ったといえよう(図表 1)。

図表 1 世界半導体売上高の推移：3 カ月移動平均



出所：WSTS を基に筆者作成

2025 年秋口以降の急速な拡大の背景には、AI 利用拡大に伴うデータセンターへの爆発的な投資がある。メモリーやロジックが半導体市場の成長に大きく寄与し、AI サーバー向けのメモリーや、

¹ アジア太平洋研究所(2026)の Chapter1 Section4 は冷戦後の国際政治経済の変遷と世界半導体市場について整理している。

² ハイパースケーラーとは、Amazon、Microsoft や Google 等に代表される巨大なサーバーやデータセンターを自社で保有・運営し、世界中のユーザーに向けて膨大な計算能力やストレージを提供する事業者をさす。

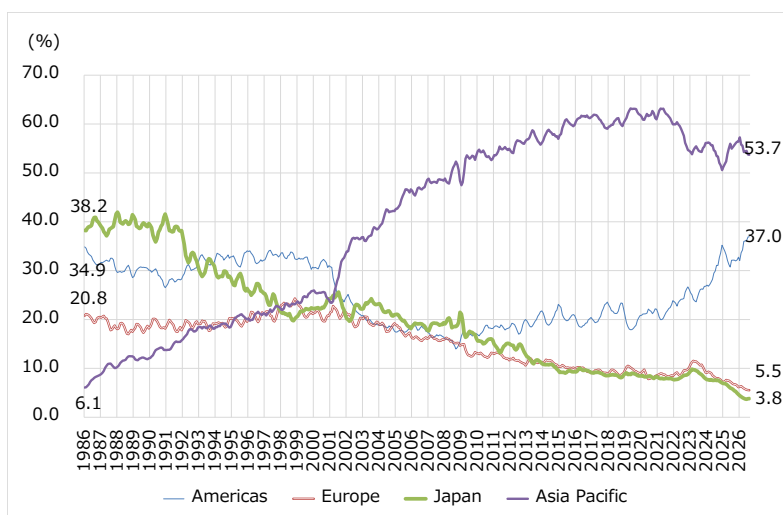
GPU(高性能グラフィック処理装置)を含むロジックは高成長を維持している。AI が「学習」のフェーズから「推論」のフェーズに移行するにつれ、汎用サーバーもアップグレードサイクルにあり、MPU(マイクロプロセッサ)の成長にも貢献している。メモリーを始め市場成長加速の勢いが極めて強い。活発な AI 関連投資が継続すると見込まれることや、汎用サーバー、自動車など産業向けの用途も堅調に推移することが予測されている。

【世界半導体売上高シェアの推移】

以上が世界半導体市場の動態であるが、そこに占める日本の位置を確認しよう(図表 2)。1980 年代後半の日本のシェアはトップで 40%近くを占め、次いで米州(Americas)が 35%程度であった。米州(31.6%)と日本(31.0%)のシェアが逆転するのは、1992 年 12 月である。アジア太平洋(Asia Pacific) (22.6%)が日本(22.4%)のシェアを上回るのは 97 年 11 月である。アジア太平洋(26.7%)が米州(26.4%)を上回るのは 2001 年 5 月である。この年は中国が WTO に加盟し、徐々に世界市場に組み込まれた年でもある。21 年 3 月にアジア太平洋のシェアが 63.2%とピークを打つ。以降、米中貿易戦争の激化に伴い、アジア太平洋のシェアは幾分低下する。一方、23 年以降、再び米州のシェアは上昇傾向を示す。

日本のシェアはかつて 1980 年代後半 4 割近くを占めたが、90 年以降低下傾向を示し、足下では 4%程度まで低下している。欧州(Europe)もかつては 20%のシェアを占めていたが、足下は 6%割れとなっている。

図表 2 国・地域別世界半導体売上高シェアの推移



出所：WSTS を基に筆者作成

世界半導体の売上高は、2025 年秋口から異次元の局面に入った。その背景には AI 関連需要の爆発的な拡大がある。その動きは世界貿易にも反映されているはずである。次に、半導体貿易、就中 AI 関連財貿易をみる。その中で、日本全体のみならず関西の AI 関連財貿易の特徴を見る。そこで関西半導体産業との特徴を関連付ける。

1. AI 関連財貿易とは何か

はじめで述べたように、足下、半導体売上高は爆発的な拡大局面にある。その背景には AI の急速な普及、発展がある。ここではそれに伴う AI 関連財貿易に注目してみよう。その前に、本稿で取り扱う AI 関連財とは何かについて、その分類と内容について説明しておく。図表 3 が示す通り、我々は WTO(2025)の“ANNEX A: LIST OF AI-ENABLING PRODUCTS AND ECONOMIC SECTORS”を参考に AI 関連財を、1) 原材料(Raw materials)、2) 製造用化学品(Processed chemicals)、3) 中間財(Intermediate inputs)及び 4) 設備・装置(Equipment)の 4 つのカテゴリーに基づいて整理した³。2.以降では、これらのカテゴリーを基に、財務省『普通貿易統計』から該当する HS6 桁コードを用いて集計し、輸出額、輸入額などを推計した。ちなみに、日本の 2025 年における半導体売上高は 6 兆 6,933 億円に対して、AI 関連財輸出額は 18 兆 9,234 億円となっている。また、全国のみならず関西の AI 関連財貿易についても集計し、その特徴をみた。なお、AI 関連財については、コンピュータ、半導体および関連機械を含む、AI の開発および実装に不可欠な専門的な工具や機械が含まれていることに注意が必要である⁴。

図表 3 AI 関連貿易財の分類と説明

財別分類	説明
原材料	原材料および製造用化学品には、二酸化ケイ素、ゲルマニウム酸化物、二酸化ジルコニウム、炭化ケイ素など、半導体製造の基盤となる重要物質が含まれる
製造用化学品	
中間財	中間財とは、半導体の製造に使用される、加工済みまたは部分的に製造された財を指す
設備・装置	設備・装置には、コンピュータ、半導体および関連機械を含む、AIの開発および実装に不可欠な専門的な工具や機械が含まれる

出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に筆者作成

³ 図表 3 には AI 関連貿易財と簡単な説明を付したが、各カテゴリーの詳細な内容については後掲参考図表 1 を参照のこと。

⁴ AI 関連財のイメージについては、齋藤(2026)や週刊東洋経済(2026)が参考になる。半導体のサプライチェーンについては大きく、「半導体設計」「半導体生産」「半導体素材生産」「半導体製造装置生産」という 4 つの部門ごとの生産状況が分けられている。なお、電子機器製造やデータセンター建設などハード関連のサプライチェーンという観点からみたものとして、齋藤(2026)の第 4 図「AI 関連財のサプライチェーンにおける日本企業」が参考になる。

2. AI 関連財貿易の特徴とパートナー

1.では半導体売上高と地域別の長期的動向をみたが、2.では AI 関連財貿易の特徴を中心に足下の動向(2022 年 1 月から 26 年 8 月まで)をみよう。

2-1. AI 関連財貿易：輸出、輸入、収支

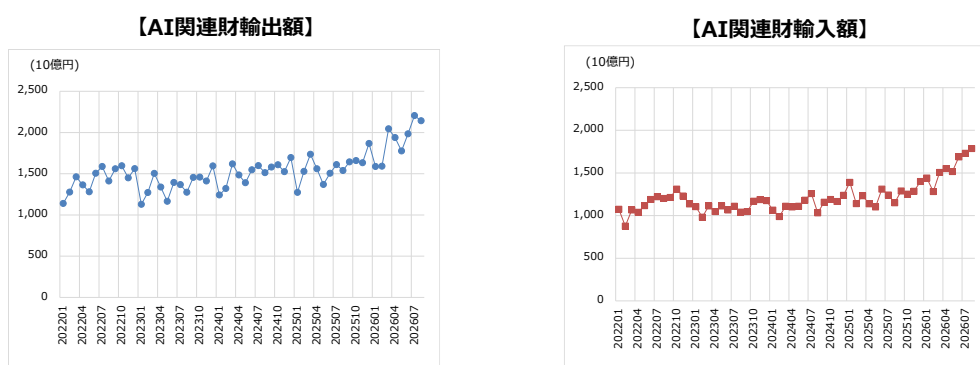
【全国の AI 関連財貿易の動向】

2-1.では、まず全国の AI 関連財貿易の特徴をみる⁵。図表 4 は全国の AI 関連財の輸出額及び輸入額の推移が月次ベースで示されている。輸出額は 2022 年から 25 年にかけて概ね 1～1.5 兆円程度の水準で推移していたが、26 年に入り増加傾向を示し、足下では 2 兆円程度の水準となっている。25 年 12 月以降、26 年 2 月を除けば、2 桁の伸びで推移している。

輸入額は 2022 年から 25 年にかけて概ね 1～1.5 兆円程度の水準で推移しており、輸出と同様に 26 年以降増加傾向を示していることがわかる。足下の動向をみれば、26 年 1 月を除けば、25 年 11 月以降、2 桁の伸びを示している。

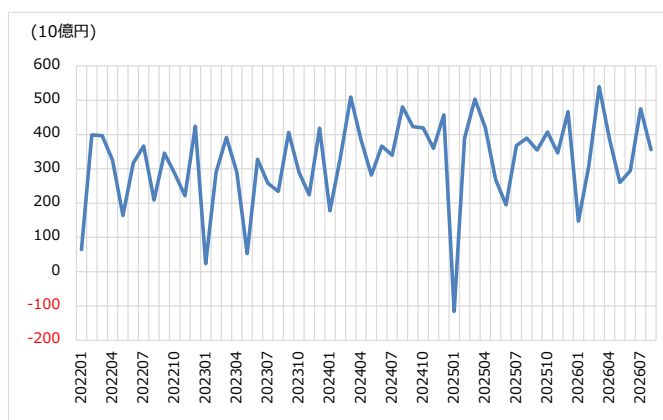
結果、AI 関連財の貿易収支は 2025 年 1 月を除けば(春節時期のずれによる影響)、概ね黒字であり、黒字額は 26 年以降増加している(図表 5)。

図表 4 AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：全国



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

図表 5 AI 関連財貿易収支の推移：全国



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

⁵ 日本における足下の AI 関連財輸出については、北辻・小林(2026)が詳しく分析している。

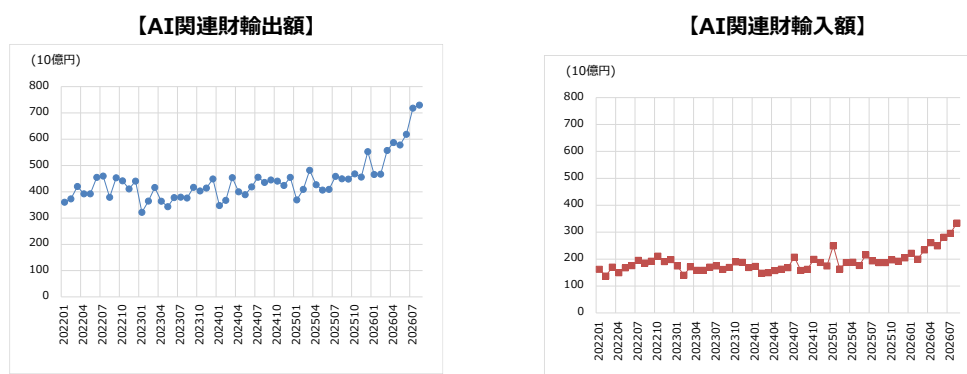
【関西の AI 関連財貿易の動向】

次に関西の AI 関連財貿易の動向を確認する⁶。図表 6 は関西の AI 関連財の輸出額及び輸入額の推移が月次ベースで示されている。輸出額は 2022 年から 25 年にかけて概ね 4,000～6,000 億円程度の水準で推移していたが、全国と同様に 26 年に入り増加傾向を示し、足下では 7,000 億円を上回る水準となっている。25 年 12 月以降、9 カ月連続で 2 桁の伸びを記録し、26 年 8 月は前年同月比 +62.3%と全国(同+39.2%)を圧倒する高い伸びとなっている。この背景には、中国、米国及び台湾向けの輸出好調がある。

一方、輸入額をみると、2022 年から 25 年にかけて概ね 2,000 億円程度の水準で推移した。26 年以降、緩やかな増加傾向となり、足下 26 年 8 月は前年同月比+78.3%と高い伸びとなっている(全国：同+55.4%)。輸出同様に輸入も大幅に伸びており、AI 関連財貿易においてアジア各国と高度な水平分業が行われていることを示している。このことは自動車や電気機器のグローバルサプライチェーンとは異なる点である⁷。

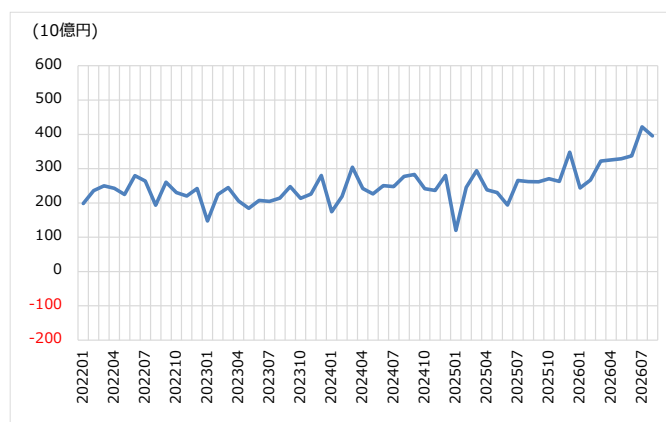
全国に比して関西では AI 関連財のうち、輸出額が輸入額を大きく上回っていることもあり、この間の貿易収支は一貫して黒字であった(図表 7)。

図表 6 AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：関西 2 府 5 県



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

図表 7 AI 関連財貿易収支の推移：関西 2 府 5 県



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

⁶ ここでの関西とは、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県に三重県を加えた 2 府 5 県ベースである。

⁷ この点に関してはアジア太平洋研究所(2026)の Chapter1 Section4 の p.30 を参照のこと。

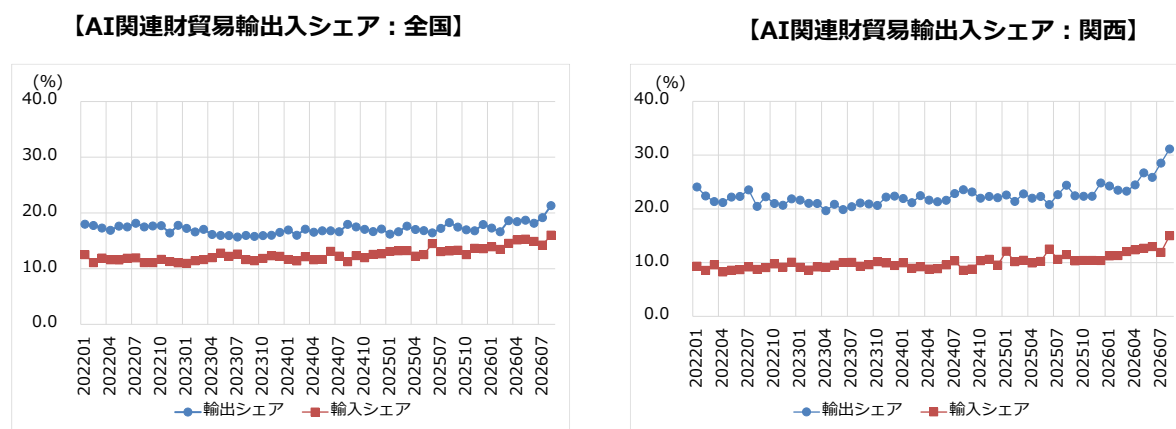
2-2. AI 関連財貿易の特徴：全国 vs. 関西

全国及び関西の輸出入額における AI 関連財が占めるシェアを示したのが図表 8 である。全国の AI 関連財輸出額シェアは 2025 年平均 17.1%であったが、足下の 26 年 1-8 月平均では 18.6%と 25 年同期平均より約 1.4%ポイント上昇している。一方、AI 関連財輸入額シェアは 2025 年平均 13.2%となっており、26 年 1-8 月平均は 14.7%と 25 年同期平均より 1.5%ポイント上昇している。

関西の AI 関連財輸出額シェアは 2025 年平均 22.6%となり、26 年 1-8 月平均は 26.1%と 25 年同期平均から 3.5%ポイント拡大している。一方、AI 関連財輸入額シェアをみれば、25 年平均は 10.8%であり、26 年 1-8 月平均のシェアは 12.5%と、25 年同期平均から 1.7%ポイント上昇している。全国、関西ともに 2025 年秋口以降の世界的な AI 関連需要拡大を受けて、輸出入シェアが急速に高まっていることがわかる。

また、AI 関連財の輸出入シェアを全国と関西を比較すると、2025 年平均の輸出シェアは関西が 5.5%ポイント全国を上回った一方、同年の輸入シェアは関西が全国を 2.4%ポイント下回った。関西の AI 関連財輸出のシェアは全国を上回るが、輸入財シェアは全国を下回っていることが特徴である。

図表 8 AI 関連財輸出及び輸入シェアの推移：関西 vs. 全国



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

2-3. AI 関連財貿易：貿易相手からみた特徴

2-3.では、全国及び関西の AI 関連財貿易を貿易相手国・地域別に整理し、その特徴をみる。

【全国の特徴】

図表 9 には、**全国**の貿易相手国・地域別(上位 5 カ国・地域)の AI 関連財輸出額及び輸入額の推移が示されている。

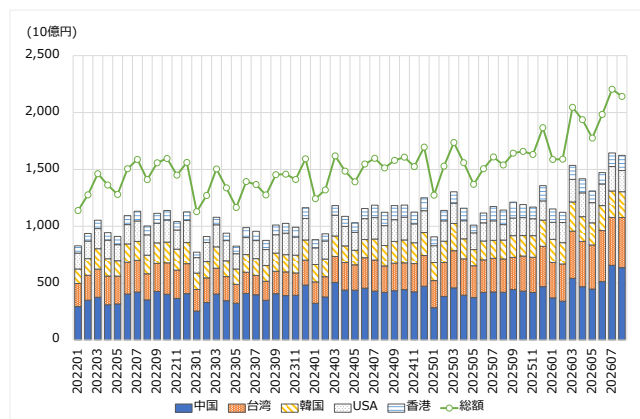
2025 年における AI 関連財輸出額をみれば、中国 4.9 兆円と最も多く、次いで台湾 3.6 兆円、韓国 2.2 兆円、米国 1.9 兆円、香港 1.3 兆円と続いており、これら 5 カ国・地域で輸出総計(18.9 兆円)の 73.4%を占めている。直近の 26 年 8 月においても上述の相手国・地域への輸出が多く、特に中国(前年同月比+51.5%)、台湾(同+50.6%)、米国(同+37.5%)向けを中心に大幅増加している。

また、2025 年における AI 関連財輸入額をみれば、中国 5.1 兆円が最も多く、次いで台湾 2.9 兆円、米国 1.7 兆円、韓国 0.7 兆円、マレーシア 0.6 兆円となっており、5 カ国・地域が輸入総計 (14.9 兆円) に占めるシェアは 73.5% となっている。

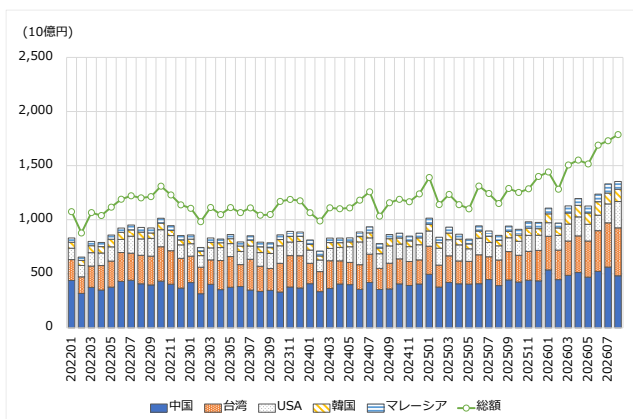
主要 5 カ国・地域の輸出入シェアは概ね同程度であり、高い水平貿易が進行していることがわかる。

図表 9 貿易相手国別 AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：全国

【貿易相手国別AI関連財輸出額】



【貿易相手国別AI関連財輸入額】



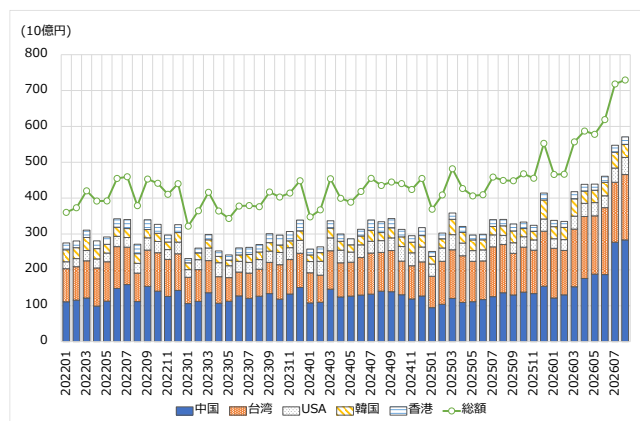
出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

【関西の特徴】

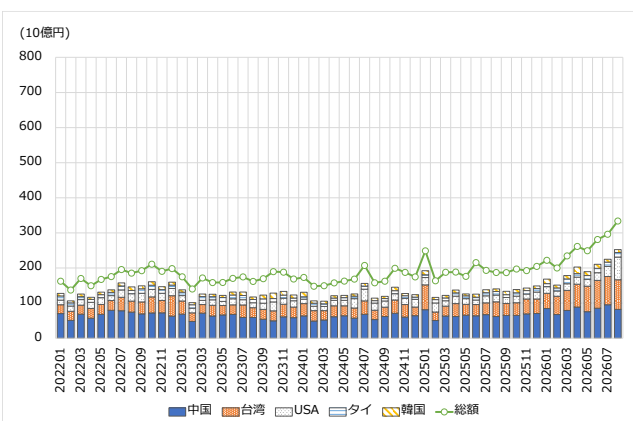
図表 10 は関西における貿易相手国・地域別(上位 5 カ国・地域)の AI 関連財貿易の推移をみたものである。

図表 10 貿易相手国別 AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：関西 2 府 5 県

【貿易相手国別AI関連財輸出額】



【貿易相手国別AI関連財輸入額】



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

2025 年における AI 関連財輸出額をみれば、台湾 1.48 兆円が最も多く、次いで中国 1.47 兆円、米国 0.4 兆円、韓国 0.4 兆円、香港 0.2 兆円と続いており、これら 5 カ国・地域で輸出総計 (5.3 兆円) の 73.3% を占めている。なお、足下の 26 年 8 月では特に中国向け(前年同月比+108.2%)や米国向け(同+87.6%)及び台湾向け(同+35.3%)が大幅に増加している。

また、同年における AI 関連財輸入額をみれば、中国 0.8 兆円が最も多く、次いで台湾 0.5 兆円、米国 0.2 兆円、タイ 0.1 兆円、韓国 0.1 兆円となっており、5 カ国・地域が輸入総計(2.3 兆円)に占めるシェアは 71.0%となっている。

貿易の相手国の特徴を見ると、中国、韓国、台湾、米国が全国及び関西の主要貿易相手国であるが、それに加えて輸出においては香港が、輸入については全国がマレーシア、関西はタイが次いで上位相手国となっている。

3. AI 関連財貿易：財別の動向から見た特徴

3.では全国及び関西における財別の AI 関連財貿易を確認し、その特徴を明らかにする。

【全国の特徴】

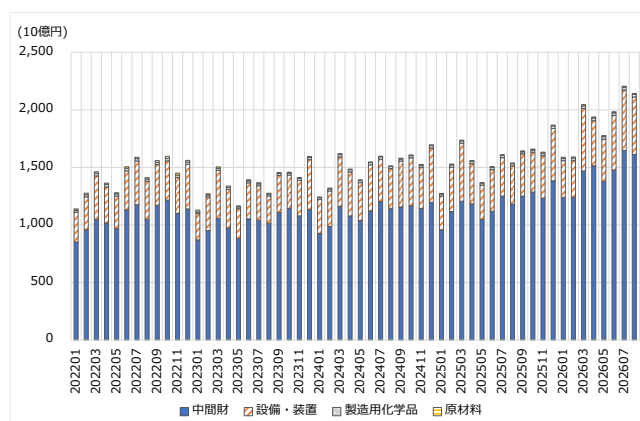
図表 11 は全国における財別にみた AI 関連財輸出額及び輸入額の推移が示されている。

2025 年の AI 関連財輸出額を財別にみれば、中間財は 14.2 兆円、設備・装備 4.4 兆円、製造用化学品 2,400 億円や原材料品 770 億円となっている。シェアは、中間財 75.1%、設備・装備 23.2%、製造用化学品 1.3%、原材料品 0.4%である。

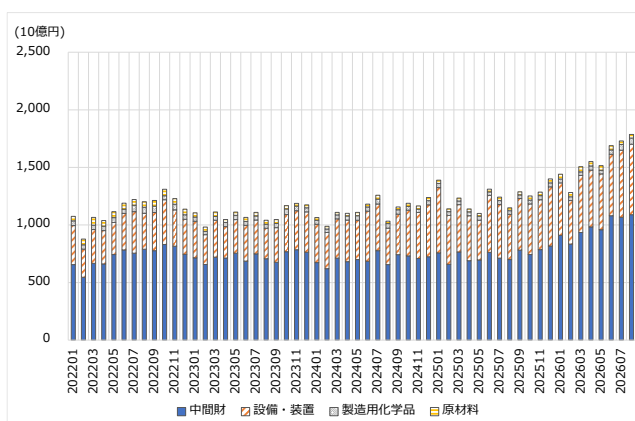
2025 年の AI 関連財輸入額を財別にみれば、中間財は 8.9 兆円、設備・装備 5.3 兆円、製造用化学品 3,990 億円、原材料品 3,360 億円である。それぞれのシェアをみると、中間財 59.4%、設備・装備 35.7%、製造用化学品 2.7%、原材料品 2.2%となっている。

図表 11 財別にみた AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：全国

財別AI関連輸出



財別AI関連輸入



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

【関西の特徴】

図表 12 は関西における財別にみた AI 関連財輸出額及び輸入額の推移が示されている。

2025 年の財別 AI 関連財輸出額をみれば、中間財は 4.3 兆円、設備・装備 9,729 億円、製造用化学品 536 億円、原材料品 54 億円となっている。シェアは中間財 80.7%、設備・装置 18.2%、製造用化学品 1.0%、原材料品 0.1%となっている。

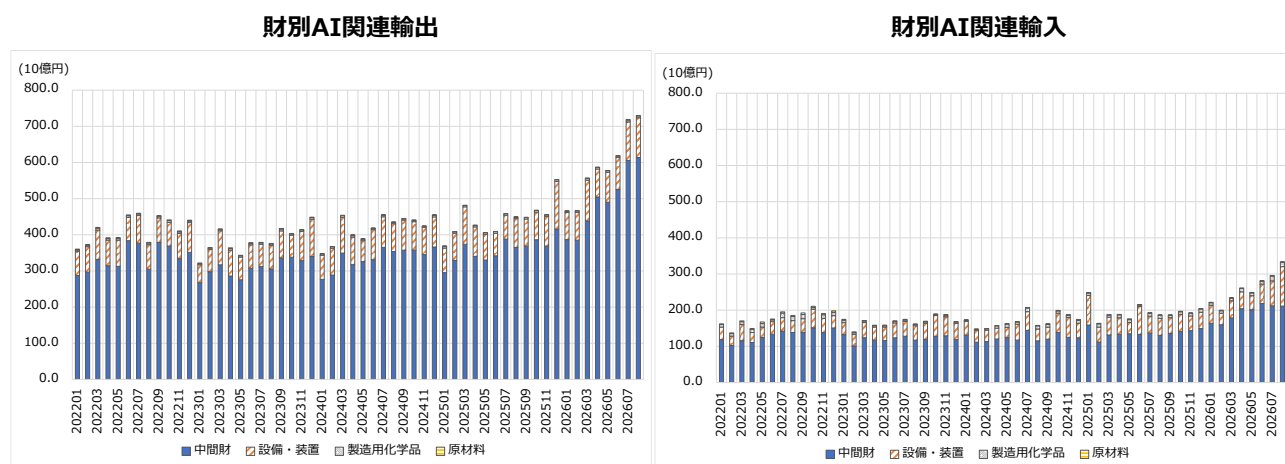
また 2025 年の財別 AI 関連財輸入額をみれば、中間財は 1.6 兆円、設備・装置 5,956 億円、製造用化学品 890 億円や原材料品 168 億円となっている。各財別のシェアは、中間財 70.1%、設備・装置 25.4%、製造用化学品 3.8%、原材料品 0.7%である。

関西では AI 関連財輸出入ともに、中間財を中心とした貿易構造となっているのが特徴である。

AI 関連財の輸出をみると、関西は全国に比して中間財は+5.5%ポイント程度(関西：80.7%→全国：75.1%)高い。逆に、設備・装置は-4.9%ポイント(関西：18.2%→全国：23.2%)、製造用化学品(関西：1.0%→全国：1.3%)と原材料(関西：0.1%→全国：0.4%)はいずれも-0.3%ポイント低い。

AI 関連財の輸入をみれば、関西は全国と比べて、中間財は+10.7%ポイント(関西：70.1%→全国：59.4%)、製造用化学品は+1.1%ポイント程度高い(関西：3.8%→全国：2.7%)。一方、設備・装置は-10.2%ポイント(関西：25.4%→全国：35.7%)、原材料は-1.5%ポイント(関西：0.7%→全国：2.2%)低い。

図表 12 財別にみた AI 関連財輸出額及び輸入額の推移：関西 2 府 5 県



出所：WTO(2025)の ANNEX A を基に財務省『普通貿易統計』から筆者作成

以上、財別にみた AI 関連財貿易を整理すると、関西は全国に比して中間財の輸出シェアが高い特徴を有していることがわかる。なお、アジア太平洋研究所(2023)の Chapter 6 Section 1 の BOX では、関西の半導体関連産業を他地域と比較し、「抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品製造業」や「電子回路基板製造業」などのシェアが高いことを指摘した。これらは AI 関連財の中間財に含まれており、関西の半導体産業の特徴が垣間見られる。全国に比して関西の中間財シェアの高さはこのことを反映している。

まとめ

アジア太平洋研究所(2026)の Chapter 1 Section 4 は、世界半導体市場の興亡を冷戦終結から現在までの変遷をたどりながら整理した。また Chapter 6 は試論として関西の半導体素材産業の特徴を明らかにした。本稿では AI 関連財貿易に焦点を当て、日本と関西経済の特徴を比較した。本稿の分析を整理すると以下の通りとなる。

1. AI 関連財貿易をみれば、全国、関西ともに 2025 年秋口以降、急拡大を示している。特に関西の輸出の伸びは全国のそれを上回る勢いである。また輸入も同様に急拡大していることから、AI 関連財貿易においてアジア各国と高度な水平分業が行われていることを示している。
2. AI 関連財の輸出入シェアを全国と関西を比較すると、2025 年の輸出シェアは関西が 5.5%ポイント全国を上回った一方、輸入シェアは関西が全国を 2.4%ポイント下回った。関西の AI 関連財輸出のシェアは全国を上回るが、輸入財シェアは全国を下回っているのが特徴である。
3. AI 関連財貿易を相手国・地域で見ると、中国、韓国、台湾、米国が全国及び関西の主要貿易相手国・地域となっている。それに加えて輸出においては香港が、輸入については全国がマレーシア、関西はタイが次いでトップ 5 となる。
4. AI 関連財貿易の財別シェアをみれば、全国は中間財 75.1%、設備・装備 23.2%、製造用化学品 1.3%、原材料品 0.4%となる。関西は中間財 80.7%、設備・装置 18.2%、製造用化学品 1.0%、原材料品 0.1%である。
5. AI 関連財貿易の財別シェアを全国と関西で比較すると、2025 年の輸出では関西が全国に比して中間財+5.5%ポイント程度高い。逆に、設備・装置は-4.9%ポイント、製造用化学品と原材料はいずれも-0.3%ポイント低い。輸入をみれば関西は全国と比べて、中間財は+10.7%ポイント、製造用化学品は+1.1%ポイント程度高い。一方、設備・装置は-10.2%ポイント、原材料は-1.5%ポイント低くなっている。
6. 以上から、AI 関連財貿易の特徴として、関西はより中間財輸出が得意な貿易構造となっている⁸。関西の半導体関連産業は他地域に比べて、「抵抗器・コンデンサ・変成器・複合部品製造業」や「電子回路基板製造業」などのシェアが高く、これらの多くは AI 関連財の中間財に含まれており、関西の景気を下支えている。その特徴に加え、半導体素材産業の強みを活かした関西の半導体産業の成長戦略が重要となろう。

⁸ 本稿では財別の特徴を分析したが、財別、国・地域別の分析については今後の課題である。

参考文献

- アジア太平洋研究所（2023），『アジア太平洋と関西 関西経済白書 2023』，一般財団法人アジア太平洋研究所，日経印刷株式会社，2023 年 10 月 6 日
- アジア太平洋研究所（2026），『アジア太平洋と関西 関西経済白書 2026』，一般財団法人アジア太平洋研究所，日経印刷株式会社，2026 年 10 月 7 日
- 北辻宗幹・小林泰斗（2026）『日本経済：AI関連輸出の現状と今後の展望』，『Economic Monitor』No.2026-052, 伊藤忠総研, 2026 年 6 月 10 日
- 齋藤 潤（2026），『AI関連需要は日本の景気にとってどれほどプラスか？』，日本経済研究センター，2026 年 8 月 4 日
- 週刊東洋経済(2026)，『特集 バブル？ スーパーサイクル？ AI・半導体 需要爆発』，2026 年 9.19-26 合併号（AI・半導体 需要爆発），東洋経済新報社，2026 年 9 月 14 日
- World Trade Organization (2025), World Trade Report 2025: Making Trade and AI Work Together to the Benefit of All, Geneva: World Trade Organization., September 2025

参考図表 1 AI 関連財の分類：HS コード 6 桁及び品名：中間財

財別分類	HSコード	HS6品名
中間財	847330	第84.71項の機械に専ら又は主として使用する部分品及び附属品（カバー、携帯用ケースその他これらに類する物品を除く。）
	852351	ディスク、テープ、不揮発性半導体記憶装置、スマートカードその他の媒体（半導体媒体、不揮発性半導体記憶装置）
	853630	電気回路の開閉用、保護用又は接続用の機器並びに光ファイバー用又は光ファイバーケーブル用の接続子（電気回路保護用のその他の機器）
	853650	電気回路の開閉用、保護用又は接続用の機器並びに光ファイバー用又は光ファイバーケーブル用の接続子（その他のスイッチ）
	853669	電気回路の開閉用、保護用又は接続用の機器並びに光ファイバー用又は光ファイバーケーブル用の接続子（ランプホルダー、プラグ及びソケットのその他のもの）
	854110	ダイオード（光電性ダイオード及び発光ダイオード（LED）を除く）
	854160	圧電結晶素子
	854190	半導体デバイス、光電性半導体デバイスを含む発光ダイオード（LED）及び圧電結晶素子（部分品）
	854231	プロセッサ及びコントローラー
	854239	電子集積回路（第8542項の他に該当しないもの）
	854442	絶縁電線その他の絶縁電気導体（使用電圧が1,000ボルト以下で、コネクタを取り付けたもの）
	854449	絶縁電線その他の絶縁電気導体（使用電圧が1,000ボルト以下で、コネクタを取り付けていないもの）
	900110	光ファイバー（束にしたものを含む。）及び光ファイバーケーブル
	903084	オシロスコープ、スペクトラムアナライザーその他の電気量の測定用又は検査用の機器及びアルファ線、ベータ線、ガンマ線、エックス線、宇宙線その他の電離放射線の測定用又は検出用の機器（その他の記録装置を有するもの）
	320820	ペイント及びワニス並びにこの類の溶液（アクリル重合体又はビニル重合体をもととしたもの）
中間財	320890	ペイント及びワニス並びにこの類の溶液（その他のもの）
	340590	履物用、家具用、床用、車体用、ガラス用又は金属用の磨き料及びクリーム、擦り磨き用のペースト及び粉並びにこれらに類する調製品（その他のもの）
	370199	感光性の写真用プレート及び平面状写真用フィルム並びに感光性の平面状インスタントプリントフィルム（その他のもの）
	370790	写真用の化学調製品及び写真用の物品で混合していないもの（その他のもの）
	381800	元素を電子工業用にドーブ処理したもの（円盤状、ウエハー状その他これらに類する形状にしたものに限る。）及び化合物を電子工業用にドーブ処理したもの
	392310	プラスチック製の運搬用又は包装用の製品及びプラスチック製の栓、ふた、キャップその他これらに類する物品 > 箱、ケース、クレートその他これらに類する製品
	392390	プラスチック製の運搬用又は包装用の製品及びプラスチック製の栓、ふた、キャップその他これらに類する物品（その他のもの）
	392690	他のプラスチック製品及び第39.01項から第39.14項までの材料（プラスチックを除く。）から成る製品（その他のもの）
	401693	加硫ゴム製（硬質ゴムを除く）のガasket、ワッシャーその他のシール（非気泡ゴム製）
	401699	加硫ゴム製品（硬質ゴムを除く。第4016項において他に分類されないもの、非気泡ゴム製）
	621143	トラックスーツ、スキースーツ及び水着並びにその他の衣類（その他の女子用の衣類、人造繊維製のもの）
	680421	凝結させた合成又は天然のダイヤモンド製のもの
	690912	陶磁製の理化学用その他の技術的用途に供する物品（モース硬さが9以上の物品）
	702000	その他のガラス製品
	841350	その他の往復容積式ポンプ
中間財	841410	真空ポンプ
	841459	ファン（その他のもの）
	841480	空気、真空又はガス用のポンプ及び圧縮機（第8414項において他に分類されないもの）
	841490	空気、真空又はガス用のポンプ及び圧縮機及びファン、並びにファンを組み込んだ換気用又は循環用フードの部分品
	841950	熱交換装置
	841989	加熱、調理、（ばい焼、蒸留、精留、滅菌、殺菌、蒸気加熱、乾燥、蒸発、凝縮、冷却その他の温度変化による方法により材料を処理する機器並びに瞬間湯沸器及び貯蔵式湯沸器（その他のもの）
	842121	遠心分離機並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機（液体のろ過機及び清浄機）
	842129	遠心分離機並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機（液体のろ過機及び清浄機）その他のもの
	842139	遠心分離機並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機（気体のろ過機及び清浄機）その他のもの
	844391	印刷機の部分品及び附属品
	847160	自動データ処理機械及びこれを構成するユニット並びに磁気式又は光学式の読取機、データをデータ媒体に符号化して転記する機械及び符号化したデータを処理する機の入力装置及び出力装置
	847180	自動データ処理機械及びこれを構成するユニット並びに磁気式又は光学式の読取機、データをデータ媒体に符号化して転記する機械及び符号化したデータを処理する機械のその他の装置
	847950	産業用ロボット
	848180	管、ボイラー胴、タンク、槽その他これらに類するものに使用するコック、弁その他これらに類する器具（サーモスタット式制御弁を含む）
	848190	コック、弁その他これらに類する物品（部分品）
中間財	848640	半導体ボール、半導体ウエハー、半導体デバイス、集積回路又はフラットパネルディスプレイの製造に専ら又は主として使用する機器、第84類の注11(C)の機器
	848690	半導体ボール、半導体ウエハー、半導体デバイス、集積回路又はフラットパネルディスプレイの製造に専ら又は主として使用する機器、第84類の注11(C)の機器並びに部分品及び附属品
	850132	電動機及び発電機
	850432	トランスフォーマー、スタティックコンバーター（容量が1キロボルトアンペアを超え16キロボルトアンペア以下のもの）
	850440	スタティックコンバーター
	853400	印刷回路
	853690	電気回路の開閉用又は保護用の電気機器（使用電圧が1,000ボルト以下のもの、第8536項において他に分類されないもの）
	853710	電気制御用又は配電用の盤、パネル、コンソール、机、キャビネットその他の物品（使用電圧が1,000ボルト以下のもの）
	853810	第85.37項の物品用の盤、パネル、コンソール、机、キャビネットその他の物品（機器を装備していないものに限る。）
	854121	電気機器：トランジスタ（感光性のものを除く。許容損失が1W未満のもの）
	854129	電気機器：トランジスタ（感光性のものを除く。許容損失が1W以上のもの）
	854130	サイリスター、ダイアック及びトライアック（光電性デバイスを除く。）
	854151	半導体デバイス、発光ダイオード（LED）及び圧電結晶素子（半導体ベースの変換器）
	854159	半導体デバイス（その他のもの）
	854232	記憶素子
中間財	854233	増幅器
	854290	集積回路（部分品）
	854390	電気機器部分品（固有の機能を有するものに限るものとし、この類の他の項に該当するものを除く）
	854420	電気絶縁をした線、ケーブルその他の電気導体及び光ファイバーケーブル（同軸ケーブルその他の同軸の電気導体）
	854470	光ファイバーケーブル
	854710	電気機器の電気絶縁用物品（陶磁製の電気絶縁用物品）
	854790	電気機器の電気絶縁用物品（その他のもの）
	902519	温度計及びバイロメーター（その他のもの）
	902620	圧力の測定用又は検査用のもの
	902730	分光計、分光光度計及び分光写真器（紫外線、可視光線又は赤外線を使用するものに限る。）
中間財	903090	オシロスコープ、スペクトラムアナライザーその他の電気量の測定用又は検査用の機器及びアルファ線、ベータ線、ガンマ線、エックス線、宇宙線その他の電離放射線の測定用又は検出用の機器（部分品及び附属品）
	960350	ほうき、ブラシ、動力駆動式でない手動床掃除機、モップ及び羽毛ダスター、ほうき又はブラシの製造用に結束し又は房状にした物品、ペイントパッド、ペイントローラー並びにスクイージー（その他のブラシ）

参考図表 1 AI 関連財の分類：HS コード 6 桁及び品名（続き）

財別分類	HSコード	HS6品名
原料品	280461	ケイ素
	280421	希ガス：アルゴン
	280429	希ガス：その他のもの
	280440	酸素
	711021	パラジウム：加工していないもの及び粉状のもの
製造用化学品	281111	ふつ化水素（ふつ化水素酸）
	290919	エーテル（非環式のもの）及びそのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体又はニトロソ化誘導体（ジエチルエーテルを除く）
	292990	その他の窒素官能基を有する化合物；その他のもの
	280469	ケイ素：その他のもの
	281119	無機酸（フッ化水素酸を除く）
	281122	二酸化ケイ素
	281129	無機酸化合物（非金属のもの）（項目2811.2に属するものを除く）
	282560	ゲルマニウムの酸化物及び二酸化ジルコニウム
	284920	炭化物：ケイ素のもの
	285000	水素化物、窒化物、アジ化物、けい化物及びほう化物
	391000	シリコーン（一次製品に限る。）
	711029	白金（半製品）
	811292	カリウム、ゲルマニウム、インジウム、ニオブ（コロンビウム）及びバナジウム並びにこれらの製品（塊、くず及び粉を含む）
	811299	カリウム、ゲルマニウム、インジウム、ニオブ（コロンビウム）及びバナジウム並びにこれらの製品（塊、くず及び粉を除く）
	847149	自動データ処理機械及びこれを構成するユニット並びに磁気式又は光学式の読取機、データをデータ媒体に符号化して転記する機械及び符号化したデータを処理する機械（その他の自動データ処理機械）
	847150	自動データ処理機械及びこれを構成するユニット並びに磁気式又は光学式の読取機、データをデータ媒体に符号化して転記する機械及び符号化したデータを処理する機械（処理装置）
	847170	記憶装置
	847989	その他のもの
設備・装置	848620	半導体デバイス又は集積回路製造用の機器
	903040	オシロスコープ、スペクトラムアナライザーその他の電気的量の測定用又は検査用の機器及びアルファ線、ベータ線、ガンマ線、エックス線、宇宙線その他の電離放射線の測定用又は検出用の機器（遠隔通信用に特に設計したその他の機器）
	903082	半導体ウエハー又は半導体デバイスの測定用又は検査用の機器（集積回路を含む。）
	903141	半導体ウエハー又は半導体デバイスの検査用の機器及びフォトマスク又はレチクルの検査用の機器
	847130	携帯用の自動データ処理機械
	847141	自動データ処理機械（同一の筐体内に少なくとも中央処理装置、入力装置及び出力装置を備えるもの。これらが一体化されているか否かを問わず、8471.30号において他に分類されないもの）
	848610	半導体ボール又は半導体ウエハー製造用の機器
	851762	通信機器（電話機又は基地局を除く。音声、画像その他のデータの受信、変換及び送信又は再生を行う機械、交換機及びフィルターを含む）
	851769	通信機器（電話機又は基地局を除く。音声、画像その他のデータを送受信する機械で、8517.6号において他に分類されないもの）

出所：WTO(2025)“ANNEX A: LIST OF AI-ENABLING PRODUCTS AND ECONOMIC SECTORS”及び財務省『普通貿易統計』を基に筆者作成

<APIR 研究統括/数量経済分析センター長 稲田義久、APIR 副主任研究員 野村亮輔、APIR 研究員 阿如漢(ARUHAN)、contact@apir.or.jp>

- ・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・本レポートは信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。